

第 91 回 教育研究評議会議事要旨

日 時 令和 8 年 6 月 16 日（火）10：00～12：00

場 所 高エネルギー加速器研究機構 管理棟大会議室 + ウェブ（Zoom）併用

出 席 者

【構成員】 浅井議長、荻尾、上垣外、栗栖、小林（洋）、菅原、田島、中野、早川、福村、門馬、足立、小谷、花垣、道園、元村、齊藤、船守、小関、波戸、小林（隆）、後田、雨宮、帯名、中村の各評議員

【オブザーバー】 三明監事、白木澤監事、東量子場計測システム国際拠点長、櫻井総務部長、森安財務部長、岩見研究協力部長、山本施設部長、島根監査室長、枝川総務課長、由井人事担当課長、立田職員担当課長、佐野財務企画課長、山口研究協力課長、三國 QUP 業務推進室長、河西国際企画課長、山本施設企画課長、栃木資産マネジメント課長、福田東海管理課長

配付資料

1. 評議員の交代について
2. 第 88 回～第 90 回教育研究評議会議事要録
3. 令和 7 年度自己点検結果について
4. 第 4 期中期目標期間 4 年目終了時評価に係る報告書について
5. 人事異動
- 6-1. 令和 9 年度概算要求について
- 6-2. 令和 9 年度概算要求について（施設関係）
7. 高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について
8. J-PARC センターの運営体制について

【1】評議員の交代について

浅井議長から、資料 1 に基づき、4 月 1 日付けで新たに評議員に就任した小林 洋平 氏（東京大学物性研究所長）及び小谷 和浩 氏（高エネルギー加速器研究機構理事・管理局長）の紹介が行われた。

【2】第 88 回～第 90 回議事要録について

浅井議長から、資料 2 の議事要録については事前に確認を終了しており、確定版を配付している旨の説明があった。

【3】審議

（1）令和7年度自己点検結果について

足立評議員から、資料3に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

（2）第4期中期目標期間4年目終了時評価に係る報告書について

足立評議員から、資料4に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

＜主な意見・質疑応答等＞

- ・人材育成に関する評価指標において、大学院生数が減少しているとの説明があったが、共同利用ユーザー向け研究員等旅費の一部削減との関連はあるのか。

→共同利用ユーザー向け研究員等旅費の見直しは今年度から実施しているため、令和7年度の実績への影響はない。

- ・評価指標の実績値は、未集計の実績等が判明した場合、過年度の数値でも修正できるか。

→実績を適切に反映するため、必要に応じて過年度の数値を修正することは可能である。

- ・評価指標における見込み値はどのような考え方で設定しているのか。また、自己評価はどのような基準で判定しているのか。

→見込み値は努力目標として設定しており、自己評価の判定は、中期目標期間終了時における目標達成の見込みを踏まえて行っている。

（3）教員の懲戒処分の審査について

道園評議員から、画面共有資料に基づき説明があり、審議の結果、今回発生した事案の審査を職員懲戒審査委員会に付託することが了承された。

【4】報告

（1）人事異動

浅井議長から、資料5に基づき報告があった。

（2）令和9年度概算要求について

小谷評議員から、資料6-1に基づく報告、及び、道園評議員から、資料6-2に基づく報告があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

- ・資料6-1にあるハイパーカミオカンデ計画の推進の中で、設備費内訳としてJ-PARC基幹装置堅牢化（887百万円）を計上しているが、これは老朽化対策の一環と理解してよいか。また、予算が満額確保できず縮小された場合であっても、計画的に進めていく方針なのか。

→J-PARC基幹装置堅牢化については、ニュートリノ実験施設での放射線損傷の増加、機械強度低下に対する改良、MR加速器のビーム供給停止を避けるため主電磁石のコイル及び電源部品の整備の要求であり一部老朽化対策も含まれる。なお、J-PARCの老朽化対策については、設備ごとの緊急度や施設運営への影響等を踏まえた優先順位を設定しており、

優先順位の高いものから予算の確保状況に応じて順次実施する方針である。また、突発的な故障は別途対応することになっている。

- ・老朽化対策は先送りするほど対策に要する費用が増加するため、突発的な故障が発生する前に計画的に実施することが重要である。大型研究施設の安定的な運営及び効率的な予算執行の観点からも、積極的に進めていただきたい。
- ・基盤的設備等整備分（設備関係）の要求額が前年度に比べて大幅に増加しているが、その理由は何か。

→補正予算を前提とせず、機構の現状や設備整備の必要性を文部科学省や財政当局に示すことが重要であるため、必要なものを要求事項として挙げている。

（３）高エネルギー加速器研究機構における教育体制等について

花垣評議員から、資料７に基づき報告があった。また、筑波大学との連携大学院協定については、10月中に締結が必要なため、後日、書面審議を依頼予定である旨の案内があった。

＜主な意見・質疑応答等＞

- ・連携大学院協定の対象大学が今後拡大した場合、個別対応による機構の負担増が懸念される。機構として専門性が高い、特に加速器に関しては他大学から見ても魅力的なものがあるので、それらの特色を生かした講義を他大学にも提供できるよう、オンラインと対面を組み合わせたブレンディット教育の手法等を活用し、幅広い大学が参加できる仕組みを検討してはどうか。

→個別対応ではなく、大学間ネットワークのような形で展開していくことが望ましいと考えている。一方で、加速器等の実習を含む教育プログラムを遠隔地の大学へどのように提供するかは課題であり、今後検討していきたい。

（４）J-PARC センターの運営体制について

小林評議員から、資料８に基づき報告があった。

【５】研究活動報告

- （１）齊藤評議員（素粒子原子核研究所長）から、素粒子原子核研究所の研究活動状況について報告があった。

【６】自由討論

浅井議長から、KEK ビジョンについて、下記の説明があった。

- ・KEK ビジョンは、各コミュニティに情報が周知されているところだが、短期的な研究のみならず、遠い将来を見据えた研究構想についても検討していただきたい。研究コミュニティの発展に向け、長期的な視点と着実な成果創出の両立を図りながら議論を進めていただきたい。

浅井議長から、次回の評議會は令和8年11月13日（金）10時00分から開催するとの案内があり、閉会した。

以 上